

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2771501083		
法人名	医療法人 浩治会		
事業所名	グループホームゆめの里		
所在地	大阪市東成区大今里西2丁目17-16		
自己評価作成日	平成 27年 3月 17日	評価結果市町村受理日	平成 27年 6月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosoCd=2771501083-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 27年 4月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりが、その人らしく生きがいをもって生活を送っていただけるよう日々取り組んでいます。利用者様の尊厳を守り、出来ることを活かせるケアを職員全員で考え支援させていただきます。日常生活では、利用者様の要望で外出する機会を多くつくり、買い物、地域行事の参加等、地域の方との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営する3ユニットのグループホームで、介護老人保健施設が併設する7階建ての建物の6階と7階に位置しています。開設から10年目を迎え、ホームに入居希望の待機が多くなったことにより、3年半前に3ユニット目を増設しています。最寄りの地下鉄の駅から徒歩1分の市街地に建ち、来訪者が訪問しやすい環境です。周辺には区民センターや公共施設、スーパー、公園、病院もあり、利便性もあります。管理者は、海外のグループホームでのボランティアの経験を生かしてホームの運営とケアに携わり、職員の中に認知症ケア専門士を配置しています。職員は、優しい雰囲気での利用者が重度になっても、一人ひとりの思いや暮らしの希望に耳を傾け、利用者のできることを大切に考えながら支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針である「1. 誰もがありのままに、その人らしく暮らすことができる施設にします。2. 家庭と変わらない生活をする施設にします。3. 安心して、楽しく暮らしていただける生活をつくります。4. 人間としての尊厳を守るケアを行います。」を職員間で共有し実践しています。	『1. 誰もがありのままに、その人らしく暮らすことができる施設にします。2. 家庭と変わらない生活をする施設にします。3. 安心して、楽しく暮らしていただける生活をつくります。4. 人間としての尊厳を守るケアを行います』を開設時に職員にも意見を聞き、ホームの基本方針として定めています。「感動を呼ぶ接遇を目指す」を業務目標とし、ホーム内に掲示しています。職員は、朝礼で理念の唱和を行い、共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあい喫茶、保育園、地域行事への参加などで交流を深めています。	運営推進会議に参加する民生委員等から、地域の情報を得て、盆踊り、バザー、敬老会等の行事に参加しています。ボランティアによるフラダンスや、保育園の定期的な訪問も続けています。中学生の楽器演奏を聞きに近くの公民館へ出向くなど、地域の方との交流もあります。近くの公園の掃除ボランティアとして参加し、掃除用具の入っている倉庫のカギを預かっていることや、災害時にはホームが地域の避難場所になっている等、地域との関係を結んでいます。管理者は、今まで以上に理解と交流を深めるため、ホームの機関誌等を地域に配布することも検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	公園の掃除(ボランティア活動)に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域包括支援センター職員、民生委員、保健医療福祉推進員、利用者家族様、利用者様、管理者、介護職員が参加し、2ヶ月に1回開催しています。会議では、運営状況、生活の様子、地域交流、消防非難訓練、認知症介護の取り組み等について報告、話し合いサービスの向上に活かしています。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、民生委員、地区の保健医療福祉推進員、利用者家族、利用者、管理者、介護主任が参加し、開催しています。会議では、ホームの状況と行事や日常をプロジェクター写真で紹介する他、感染症や看取り、消防訓練等について報告し、意見交換を行い、要望や助言を得ています。運営推進会議の議事録を家族に送付し、さらに理解と参加が得られるようにすることと、職員への開示についても検討をする予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者説明会の参加、利用者様の状況、運営内容等、全ての情報提供を行うほか、市からの通知や指導に基づき連携体制の確保に努めています。	市の担当課には、外部評価の報告や事故報告を行い、市からの通知や情報提供はメールで配信しています。区民センターが近く、区の担当者とは日頃から連携を図っています。区のグループホーム事業者連絡会に月1回参加し、ホームの取り組みや空床状況などの情報交換を行い、職員が相互に事業所見学会を行うなどして交流を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ユニット玄関は施錠していませんが、エレベーターは電子キーによる暗証ボタンになっています。施錠の閉塞感を和らげるために、散歩や買い物に出来る限り出かけるよう配慮しています。</p>	<p>身体拘束をしないケアを目指して、指針、マニュアルを作成し、職員に周知しています。法人全体の虐待、接遇委員会で何度も検討しています。研修や勉強会には職員が参加しやすいよう、複数の日程を設けて実施しています。エレベーターは電子ロックで施錠していますが、ユニット玄関は開錠しています。電子ロックの開錠については家族にも意見を聞き、利用者の外出希望に思いを遮らないよう、随時対応しています。利用者だけではなく、来訪者も自由に出入りするに至っていない状況です。</p>	<p>今後は安全性を重視しながら、利用者や来訪者にわかりやすい方法でエレベーターの電子ロック番号を表示する等、閉塞感の軽減に向けて取り組むことが期待されます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設全体での事例検討会参加、又は部署内での勉強会でどのような行為が虐待に当たるのかを話し合い、意識を高めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員全員で定期的に、人権について話し合い意識を高めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書により説明を行ない、不安や疑問点を尋ね、ご理解・納得をいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見や要望は介護計画見直し時や生活の中で常に聞くように心がけています。又、施設内には意見箱を設置しています。	年1回、家族・利用者に向けてアンケートを実施しています。また、日頃から利用者や家族と接する際、要望や希望等の把握に努めています。把握した内容は接遇委員会で検討し、必要時には講師を招いて研修を行う等、改善に取り組んでいます。運営推進会議は家族代表が参加し、意見を聞く機会にしています。家族へ書類を郵送する際は、利用者の写真や広報誌を同封し、利用者の様子や近況を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課での面談、全体会議、日頃の意見交換で職員の提案を聞き、業務に反映するようにしています。	管理者は、事業所の運営や良いサービスを提供するため、職員とのコミュニケーションが大切と考え、日々心がけています。年2回、人事考課での面接を行い、職員の全体会議でも意見や要望を聞いています。会議以外でも、日常的に管理者から声をかけ、意思疎通に努めています。業務マニュアルは、職員が提案し、話し合いで改訂して、サービスの改善に繋げています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行ない、評価、把握の結果に基づき、職員の能力開発や育成、業務改善及び処遇の適正化を図り、向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での内部研修や各部署の代表職員で構成された委員会での勉強会を行っています。又、外部研修にも参加し、参加してきた職員は研修内容を内部職員に報告をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東成区内の事業所と定期的に交流会を行ない、勉強会、情報交換、サービス向上の為の話し合いを行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に利用者様、家族様との面談を行ない、不安な点や要望を聞いています。その後も定期的に要望を聞きながらケアプランの作成につなげています。又、日常で接する中で不安や要望について耳を傾けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時に利用者様の生活状況の報告をする際に不安な点、要望について耳を傾けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様の要望を聴き、希望される生活を送る為のサービスについて話し合い、ケアプランを作成し同意の上でサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意とする分野を活かせるよう役割を持っていただき、一緒に暮らすという意識を大切にしています。料理の仕方、洗濯物の干し方、着物の着付け等、利用者様から教わる場面もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも面会に来ていただき、一緒に外出されたり、外食に行かれたりしています。又、行事にも家族様に参加していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者様の馴染みの人や店、わいわいサロン、ふれあい喫茶等、関係を維持できるように支援しています。又、グループホームに尋ねてこられる友人、電話をかけてこられる友人もおられます。</p>	<p>職員は、以前住んでいた町内会主催の地域高齢者の集い・ふれあい喫茶等の送迎や参加の支援をしています。趣味の絵画展や、油絵具購入に行きつけの専門店に行くこともあります。職員は、友人からの電話や訪問があった時の対応、手紙やはがき等の代筆の支援を行う等、馴染みの関係を大切にしています。商店街の人々との馴染みの関係もできています。利用者や家族からの馴染みに関する情報は「発見ノート」に記載し、職員間で共有しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士で話しゆっくり過ごしていただけるよう配慮しています。なかなか関わりを持たない方には、職員が利用者様同士の交流の橋渡しをしています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>その後の様子を伺ったり、相談等の関係性を継続しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや暮らしの希望については、日常生活の中で把握するように努めています。又、職員で情報共有できるように発見ノートに記録しています。要望の少ない方については家族様に伺うようにしています。	管理者と職員は、事業所の方針の中にある『その人らしい暮らし、楽しい暮らし』を支援するために、利用者の思いや意向の把握に努めています。日々、支援の中で把握したことを『発見ノート』に記載し、職員間で共有して支援に繋げています。管理者は、更に職員が利用者支援に活用しやすいよう、把握した貴重な内容を利用者毎に整理し、蓄積していくことを検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接、入居後も生活歴の把握に努めています。定期的にケアプランの見直しを行いながら家族様、職員間で情報の共有をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランのサービス経過記録の把握、記録表、熱計表、申し送りノートにより利用者様の現状を職員全員で把握しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に利用者様の要望、心身の状態を把握し、家族様の意向も確認した上で介護計画を作成しています。介護計画は毎月、担当職員がサービス経過記録を記入し、計画作成担当者が評価しています。モニタリングを行う中で、新たな要望や意見を反映していくようにしています。</p>	<p>介護計画書は原則として3ヵ月毎に見直し、家族の確認と同意を得ています。介護計画書は、支援目標、内容等がわかりやすく記載しています。支援事項は毎日、職員がケアプラン経過観察記録で確認し、1ヵ月毎にサービス経過記録表でモニタリングをしています。ケアカンファレンスは、3ヵ月毎に開催し、検討事項、結論、残された課題等の様式で話し合っています。計画作成担当者は、モニタリング・ケアカンファレンスを基にアセスメントを実施し、介護計画書の見直しをしています。家族の意向は、来訪した際に確認し、介護計画書に反映させるよう努めています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員全員でサービス経過記録を記入しています。その記録と利用者様、家族様の要望をもとにして3ヶ月毎に介護計画を見直しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者様の要望、家族様が対応できない場合は代わりに職員が代行する等、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるレクリエーションを楽しんだり、消防署に避難訓練に立ち会っていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様の希望により訪問医療を受けられている方、入居前から行かれている病院に継続して定期受診されている方もおられ、かかりつけ医と連携し緊急体制を整えています。又、訪問歯科を週1回行っており、義歯の調整や口腔ケアを行っています。	利用者の多くは入居後、事業所の協力医療機関の医師がかかりつけ医になっています。協力医療機関の訪問診療は月2回あり、希望者が診察を受けています。また、協力歯科の訪問診療は週1回あります。入居前よりかかりつけの医療機関に、訪問診療を受けている利用者もいます。眼科や皮膚科等は、家族の付き添いで通院しています。職員が通院介助や付き添いの支援をすることがあります。夜間や緊急時対応については、協力医療機関との連携で体制整備ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携をとり、利用者様の様子や変化を報告、相談しています。利用者様の体調悪化の早期発見、早期受診が出来るよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された時には、病院側との情報交換、医師との相談を行ない関係づくりに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を作っており、重度化した場合の看取りの指針があります。終末期において、医師、看護師、家族様、職員で話し合いの場を持ち対応しています。	看取り指針を策定し、これまでに数名の看取り実績があります。家族・利用者・主治医・看護師・職員等で話し合い、看取り委員会で検討して状態に応じた支援をしています。職員は、看取りの経験を通して貴重な学びをすると共に、事業所の看取り支援で家族が安心し、納得した終末期を迎えられた事例から、安堵感を持ってもらえたことにより、今後の支援にも前向きに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時の対応を勉強会にて行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えるマニュアルを作成しており、年2回消防署の立会いで避難訓練を実施しています。非常時・災害時に食料品と水を備えています。	火災、地震、水害等災害マニュアルを作成しています。また、スプリンクラー、消火器、避難経路、火災報知器等も整備しています。避難訓練等は、年2回実施しており、うち1回は老人保健施設を含む施設全体で、消防署の指導を受けて実施しています。1回はグループホーム主体の自主訓練を行い、マニュアル内容の確認、避難方法の確認等を行っています。施設全体は地域の緊急避難場所に指定されていますが、管理者は、災害時における事業所と地域の協力関係について、運営推進会議等でも検討していく方針です。非常災害時に備え、人数分の水、非常食の備蓄を保管しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間としての尊厳を守るケア、利用者様と接する態度に十分に気をつけて対応させていただいております。接遇委員会が行う虐待事例検討会にも参加し接遇面での意識を高めています。	プライバシー保護についてはマニュアル、指針を整備しており、職員がいつでも確認できるようにしています。接遇委員会の研修で職員の啓発を図っています。接遇5原則として、『1. 挨拶、2. 表情、3. 身だしなみ、4. 態度、5. 言葉づかい』を掲げ、利用者の尊厳やプライバシーを損ねないケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物を選んでいただく、衣類の選択、外出の行き先、レク等出来る限り利用者様の自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の流れを細かくきめず、利用者様の希望やペースに合わせるよう臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時に衣類を利用者様に選んでいただいております。又、長い髪の毛を束ねたり、希望者には簡単な化粧をお手伝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食作りを利用者様と職員と一緒に 行っています。米とぎ、野菜の皮むき、盛り付け、テーブル拭き、片付け等、 会話を楽しみながら出来るように支援 しています。	朝食と夕食は、併設する老健の厨房で 調理されたものが運ばれます。昼食は 業者から食材を取り寄せて、職員が調 理しています。利用者は米とぎ、下ごし らえなど、できることに参加していま す。出前のお寿司を取ることもあり、利 用者の楽しみになっています。職員 は、介助が必要な利用者のそばでさり げないサポートをしながら、和やかに 会話をして、同じ食事を摂っています。 利用者が毎日の献立を居間の大きな ホワイトボードに手書きすることによ り、食事への関心が持てるような工夫 をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	栄養士より栄養バランス、カロリーを計 算してもらっています。食べ物に好き 嫌いやアレルギーのある方には、代わ りの副食を用意したり、食事形態も利 用者様が食べやすいように工夫してい ます。又、食事摂取量、水分摂取量、 体重の変化を記録にとって体調管理 に気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施しています。 上手く磨けない方には、職員が介助を 行ない口腔内の清潔保持に努めてい ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗のある方には、定時の声かけによりトイレ誘導を行っています。オムツ着用やトイレ誘導が必要な方には、排泄記録をとり排泄パターンの把握に努めています。又、トイレの場所が分かりやすいように工夫しています。	排泄記録を取り、利用者毎にパターンを把握して支援しています。水分摂取量も同時に記録し、利用者の状況確認を行っています。立位が可能な利用者にはトイレ誘導を行い、排泄介助しています。下着、リハビリパンツ、パッドは利用者に合わせて選択しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録、水分摂取量を記録をとり1日の水分の目安にし、便秘気味の方には、適度な運動を行ったり、食後にトイレ誘導を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後にゆっくり入っていただいています。好きな時間や曜日の希望があれば、出来る限り対応するようにしています。	ホームには、一般家庭浴槽とコンパクトな機械浴槽があり、入浴は利用者の体調を見ながら、希望や状況に合わせた支援を行うようにしています。季節風呂で入浴を楽しめるようにしています。重度化により、2人介助での入浴が増えていますが、ホームでの入浴が難しい場合には、併設する老健のライン浴を利用し、入浴をしています。しかしながら、入浴回数や清拭等の振替が少ない状況です。	入浴は、利用者の体調管理のもと、週2回以上実施できるよう体制を整備することが望まれます。また、入浴できなかった時は、清拭や足浴等で対応し、保清と心地よく過ごせるような支援が求められます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	常に利用者様の体調や様子を気 にかけて、静養していただける よう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	内服薬、外用薬をケース記録や 薬確認表にまとめて常に確認し ています。又、薬の変更時は薬 の申し送りノートにより職員間 で共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	一人ひとりの利用者様が意欲 的な生活を送ることが出来るよ う、常に利用者様の興味がある ことに対して支援するよう心が けています。個別の趣味、外出 等利用者様の希望に対して出 来る限り支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している	天気の良い日は外出しています。 外出先は近隣の公園、スーパー や商店街への買い物等、個別 に行きたい所へ行けるよう支 援しています。又、花見や菖蒲 園、地域の盆踊りにも出かけて います。	天気の良い日には、近くにある 公園に散歩に行くことや、お やつ等をスーパーや商店街へ 買いに出かけています。季節 により花見や菖蒲園、地域の 盆踊り、敬老会等、機会があ る度に出かけています。管理 者は、外出や外気に触れる事 の大切さを認識し、日常的な 支援として各階にある屋外デ ッキや広い屋上のスペースも 利用するよう検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者様の小遣いは事務所の金庫に保管しており、買い物時に財布を利用者様に手渡し、できる方にはお金の支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった場合には電話をかけていただいています。手紙やハガキの返事を書けない方には、職員が代筆をして一緒にポストに入れています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には手芸作品、スタッフの紹介写真、行事の写真が飾ってあります。リビングにはソファがあり、新聞や雑誌を置いています。廊下にも椅子が置いてありゆっくり過ごしていただけるよう配慮しています。	ホーム内はバリアフリーで、車いすの利用者にも安全な構造になっています。玄関のエレベーターホールには、職員の紹介として、写真と共に趣味や得意なこと、自己アピール等を記載し、掲示しています。また、壁には利用者が描いた油絵、書道作品、行事の写真などが飾られています。玄関や廊下は広く、明るいリビングには椅子やソファを配置し、利用者は思い思いの場所で寛ぎ、落ち着いて過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には利用者様同士で会話したり、ゆっくり過ごしていただけるように椅子を置いています。リビングにはソファに座りテレビを見たり、雑誌や新聞を見たり出来るように配置しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、タンス、テレビ、小灯台、椅子、洗面台を備え付けています。利用者様が使い慣れた家具や馴染みの品物を持ち込んでいただいています。	各居室はゆったりとした広さで、入り口は引き戸になっています。洗面台、ベッド、テレビ、椅子、タンス、消灯台を備えています。部屋には、ぬいぐるみ、孫の写真を飾り、油絵の道具と描かれた絵等、利用者の思い思いの物を持ち込んでいます。居室には、自宅から持ち込んだ机やテーブル、お茶セット、新聞、書籍など、好みの物を置き、いつでも楽しめるようにしている利用者もいます。部屋に合わせてレイアウトし、個別の空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が使う扉は引き戸を使っています。又、廊下は全て手すりを取り付けています。フロア全てに段差が無く、歩いて疲れた時はすぐに座れるように所々に椅子を配置しています。		